

広島県の農業振興 — 広島県の農業経営発展課長が語る —

広島県の農業は、2015年の経営耕地面積に占める中山間地域の比率が80%を超えるという不利な条件のもとで農畜産物の生産が行われており、担い手の高齢化・後継者不足が進んでいます。一方で、中山間から島しょ部までがその県域に位置づけられ、青森県弘前市から熊本県熊本市と同じ気候条件を持つともいわれており、県内においてミカンとリンゴが同時に栽培できる珍しい県でもあります。

このような生産条件のもとで、広島県内では、集落法人や新規就農者（Iターン、Uターン）、農業外企業の農業参入も進み、広島県の農業振興施策を見れば、日本全体の農業政策が展望できると言われます。

本セミナーは、このような広島県の農業政策を立案・実施する農業経営発展課で課長職にある向井雅史氏が、広島県の農業振興施策の現状と課題、および公務員の役割について語ります。

日時：2018年5月28日（月）
12時50分～14時20分

場所：広島大学生物生産学部C201講義室

講師：広島県農業経営発展課長
向井 雅史 氏

本講座は、広島大学・大学院生物圏科学・工学・理学・先端物質科学・総合科学研究科に所属する大学院生を対象としたセミナーですが、生物生産学部をはじめ、広島大学に所属する学部生・院生で、農林水産省、広島県庁といった都道府県・市町村などの公務員になることを目指している皆さんは、就職のために参考になると思いますので、奮って参加して下さい。

問い合わせ先：

広島大学大学院生物圏科学研究科
准教授 細野賢治（食料生産管理学研究室）
082-424-7959 kjhosono@hirosima-u.ac.jp

*メールでお問い合わせ下さい。